

彩雲

S
A
I
U
N

【彩雲(さいうん)】とは、緑などが美しく色づいた雲を言います。日光が雲の水滴で回折するために生じるもので、昔からよいことの起こる吉兆の雲とされています。

VOL. **5** 【平成23年9月】



〔がんばろう ふくしま! ロゴマーク〕
東日本大震災により被災した福島県が、
県民と一体となり復興に向けての気運を
醸成させるため作成したロゴマークです。

CONTENTS

- P1** 病院長あいさつ「特別な年、平成23年」
- P2** 【TOPICS】精神科「児童思春期外来」を開設しました
- P3** 児童思春期外来の診療に関するQ & A
- P4** 当院からのお知らせ
 - 病院機能評価(Ver.6.0)の認定更新
 - 満足度調査の実施結果
- P5** 会計窓口だより ～精神科外来の午後の再診予約について～
- P5** 〈お薬ミニ講座〉～精神科で使用されるお薬について～
- P6** 〈心の健康相談〉～統合失調症についてのQ & A～
- P6** 内科外来 ～4月より再開しました～
- P7** 医師紹介
- P7** 外来診療のご案内
- P7** 交通のご案内・送迎バスのお知らせ



～特別な年、平成23年～



病院長 横山 昇

当院地域連携誌「彩雲」第5号がやっと刊行の運びとなりました。実は、この第5号は既に校正刷りが出来上がり、3月10日付の内部文書で編集委員のメンバーに最後のチェックを依頼し終え、後は3月末の完成・配布を待つだけになっていました。そして翌3月11日午後2時46分、東日本をあの大地震が襲ったのです。千年に一度と言われる未曾有の大震災の前に当院の病院としての機能も瞬時にして停止し、ほぼ十分な機能回復を果たすまでに約1ヶ月の時間を要することになりました。診療機能の復旧に全エネルギーを集中させた結果、それ以外の業務は軒並み2～3ヶ月遅れとなり、気が付くと連携誌の原稿は完全に時季外れのものになっていました。掲載予定であった表紙の写真(今年の干支の卯の張り子)も、昨年11月に主催した福島県自治体病院学会の報告も、新鮮味のない遠い昔の話のようで、とてもそのまま印刷に出す気にはなれず、大急ぎで編集をし直し、写真も記事も入れ替えてどうにか秋に間に合わせることができました。

辛いことばかりではありません。幸いにも当院の念願の一つであった「児童思春期外来」をこの8月からスタートさせることができたのです。当院を始め県南地域には児童精神医療の専門医師がいなかったため、これまで発達障害等の患者様は遠く郡山市までの通院を余儀なくされてきました。各方面から寄せられる要望に応えられない現状を、職員一同忸怩たる思いで噛みしめてきましたので、「児童思春期外来」の開設は本当に嬉しい出来事であり、その意味で今年はやはり特別な年と言えるかもしれません。この機会に、外来開設に際し全面的に支援をいただいた福島県立医大精神科教室および病院局の関係者の皆様方に、改めて深く感謝申し上げたいと思います。

特別な年の特別の災害を経験してつくづく思うのは、やはり「人としての心」です。惨状を前にしてあっけなく立ち去る医師も居れば、休日も返上し連日泊まり込んでまで病院の復興に尽くす看護師や事務職員も居ました。いつ収束するか全く見通しが立たない原発事故と向き合い、それでも前に進もうとする力と勇気を与えてくれるもの、それが「人間としての真心」なのではないでしょうか。特別な年の特別の復興を願うばかりです。

矢吹病院の基本理念・基本方針

基本理念

仁愛 ・ 誠意 ・ 献身

～思いやりと真心で患者さんに尽くします～

七つの基本方針

精神保健福祉法を遵守し、私たちは

1. 患者さんの人権に配慮し、癒しと回復の場を提供します。
2. 情報の共有と相互の理解のもと、効果的で適切な医療を提供します。
3. 患者さんの社会復帰の促進を図り、家庭や地域での生活を支援します。
4. 公的責務を自覚し、救急や治療困難な患者さんの受け入れに努めます。
5. 積極的に関連機関と連携し、広く地域精神保健活動に取り組みます。
6. 透明かつ適正な運営により、県民の理解と信頼を得られるよう努めます。
7. 明るく働きがいのある職場をつくり、真の「こころの治療を」追求します。

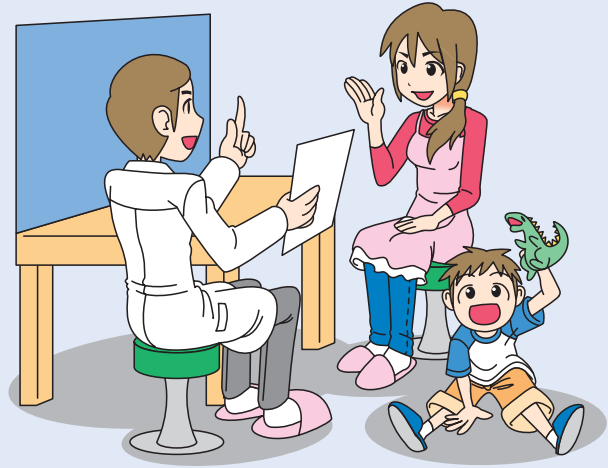
TOPICS

● 精神科「児童思春期外来」の開設について ～平成23年8月から診療を開始しました～

近年、子どもの発達の問題や心の問題は教育・保健・福祉の現場などで大きなキーワードとなっていますが、専門に取り組む医療機関や医師が不足しており、全国的にも、また県内でも十分な対応ができていないのが現状です。

そこで当院では、県内、特に県南地域の児童思春期精神科医療の充実を図るために、8月より精神科の専門外来として「児童思春期外来」を開設しました。

一般の精神科外来とは別に専用の診察室や待合室、プレールームなどを整備して、完全予約制により実施しております。



1 診療日・診療時間・担当医師

- 水曜日（※派遣の都合等により休診の水曜日有り）
 - 診療時間 9:00～11:30（※午後も一部診療予定）
 - 担当医師 公立大学法人福島県立医科大学派遣の担当医師
- 木曜日
 - 診療時間 13:00～16:30
 - 担当医師 当院常勤の金澤壮一医師
- 第三土曜日（※23年度のみです。）
 - 診療時間 9:00～11:30（※午後も一部診療予定）
 - 担当医師 井上祐紀医師（社会福祉法人日本心身障害児協会「島田療育センターはちおうじ」所属）

2 診療対象年齢・疾患

- 対象年齢
 - 3歳～15歳までが対象です。
- 対象疾患
 - 発達障害（ADHD、自閉症など）
 - 適応障害（不登校など）
 - 習癖異常（チック、抜毛など） など。

3 予約方法

- 診察希望の方は、電話にて予約してください。
- 予約受付時間 平日の 8:30～17:00
- 電話番号 0248-42-3111



● 児童思春期外来待合室

児童思春期外来の診療に関するQ&A

1 どのような症状(行動)が診療の対象になりますか？

症状(行動)例

- * 授業中、先生の指示がきけず、落ち着いて座ってられない。
- * 突然キレて、手がつけられなくなる。
- * 学力の著しい偏りがある。(読み・書き・計算などの一部だけができない。)
- * 同じ行動に強くこだわる。本人が日常生活を送る際に困る癖がある。集団行動ができない。
- * ことばが遅れている。
- * 外出せず、引きこもって家族とも話さない。
- * 学校に行くのを怖がる、学校に行けない。
- * 性格が変わったようにだらしくなり、生活が昼夜逆転している。
- * 口数が減り、ふさぎ込み、元気がない状態が続いている。
- * イライラが強く、他人や自分の体を傷つけてしまう。(リストカットなど) など。

2 治療はどのように行うのですか？

- * 問診や検査(心理検査など)による診断のほか、必要に応じて薬物療法やカウンセリングなどにより治療を行います。
- * 学校、児童相談所など関係機関と連携をとりながら治療を進めていくこともあります。

3 どのように予約すればいいですか？

- * お電話にて「児童思春期外来」の診療予約の旨を、お申し出ください。
外来の診療予約担当にて予約をおとりします。
- * 予約状況によっては、お待ちいただく場合や、ご希望の日に予約をお取りできない場合もあります。
- * 初診の場合は、診察に1~2時間程度の時間が必要となります。あらかじめご承知ください。

4 対象年齢の制限はありますか？

- * 「3歳から15歳まで」を診療の対象年齢としています。

福島県立医科大学神経精神医学講座の協力などによりまして、児童思春期の精神疾患にふさわしい環境での、児童精神医療の専門医師による県南地域初の児童思春期外来を開設することができました。

未来を担う子ども達が、心身共に健康で学校・社会生活を送るためにも疾患の早期発見・早期治療が重要です。不明な点などありましたらお気軽にお問い合わせください。

当院からのお知らせ

● 病院機能評価(Ver.6.0)の認定更新

病院機能評価は、厚生省(現在の厚生労働省)や日本医師会などの出資により設立された財団法人日本医療機能評価機構が平成9年4月から開始した事業で、客観的な立場から病院の医療サービスを体系的にさまざまな角度から評価して、医療の質を高めることなどを目的に実施されています。平成23年8月5日現在、全国では約2,500病院、福島県内では31病院が認定を受けています。

病院機能評価の審査には書面審査と訪問審査があり、事前に自己評価等を実施して改善すべき点などを確認し、必要な対策を行います。病院機能評価を受審することは、病院の現状を客観的に把握して医療の質の向上と効果的なサービスの改善につながるほか、具体的な改善目標が設定されることや共通認識により病院全体の改善意欲の向上などに役立つ取り組みです。

当院では、平成12年3月に、精神科病院として全国19番目、福島県立病院としては初めてとなる認定(認

定期間:5年間)を受け、その後、認定更新のための審査を受けて平成17年5月に認定を更新、そして、更新のための審査を再度受審して、平成22年6月に認定を更新することができました。

今回の認定更新については、最新の評価体系Ver.6.0により、「療養環境と患者サービス」や「精神科に特有な病院機能」など8つの評価領域について審査が実施され、審査の結果、全職員が一体となって医療の質の向上に取り組んでいることがうかがえるなどの評価をいただきましたが、検討を要する事項も見受けられたことから、今後も医療機能の向上に向けて、継続的に取り組んでいきたいと思っております。



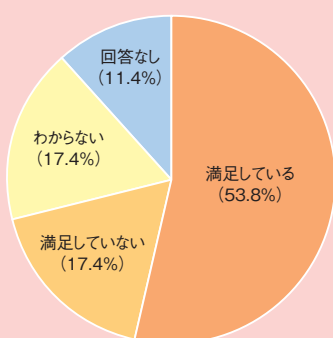
● 更新された病院機能評価認定証

● 満足度調査(病院の接遇・利用に関するアンケート調査)の結果について

ご満足いただける病院を目指して

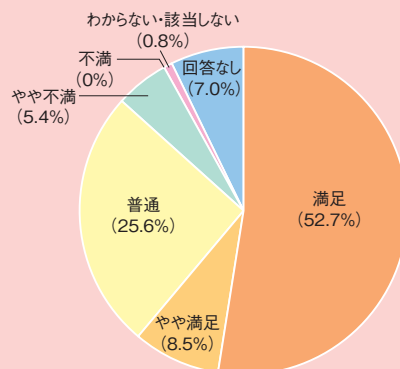
当院では、患者様へのサービスの向上や改善のために、毎年、患者様と付き添いの御家族の方を対象に、病院の接遇や利用に関するアンケート調査を実施しています。入院されている患者様に、職員の接し方や対応のほか、病院の生活環境や設備などについてお聞きしましたところ、病院の入院生活に「満足している」と答えられた方が53.8%、「満足していない」と答えられた方が17.4%でした。施設面など、要望に一つでもお応えできるよう取り組んでまいりたいと考えております。

〈入院生活に関する満足度〉



外来の患者様や御家族の方へのアンケートについては、「医療サービスに関する病院全体の印象」が「満足である」と「やや満足」と答えられた方の合計が約61%となり、昨年よりも10ポイント程度減少しました。一方、「不満」や「やや不満」の合計は約5%と昨年よりも2ポイント改善しましたが、接遇面や診療体制面でのさらなる取り組みが必要との結果となりました。今後も、御満足いただける病院を目指して取り組んでまいります。

〈医療サービスに関する病院全体の印象〉



会計窓口だより

精神科外来の午後の再診予約について

午後の診察は、予約できることをご存じですか？

精神科外来の再診については、予約なしでも診察を受けられますが、待ち時間を短くするための方法の一つとして、予約診療を行っています。現在のところは、午後の再診に限られますが、希望する方にはご予約をいただいております。予約時間には優先的に診察を受けていただけるように努めています。

予約は待ち時間短縮に一定の効果があり、昨年10月の待ち時間調査の結果でも、午後の待ち時間の平均が23分4秒であったのに対して、予約有りの29人の方の平均待ち時間は10分4秒であり、13分短くなっていました。

予約をするには、主治医をお決めいただき、その主治医の診察日について予約をします。主治医がはっきりしない場合は看護師等にご相談ください。

再診予約は会計窓口が担当していますので、診察後に会計窓口で次回の予約をとっていただくことができます。また、電話でも受け付けていますので診察券を準備してお問い合わせください。(ただし、当日の予約は午前11時までとさせていただきます。)

なお、外来診療のご案内は裏表紙にありますのでご覧いただくとともに、不明な点は、看護師または会計窓口にお問い合わせください。



● 窓口で予約した際に交付される予約票

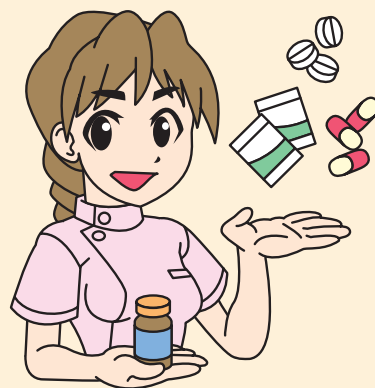
お薬ミニ講座

● 精神科で使用されるお薬について

社会の仕組みが複雑さを増し、ストレスの多い今日、精神科疾患で苦しむ方が多くなっています。一番多く見られる統合失調症では、健康な状態の時にはできていた脳の神経の調整がうまくいかなくなって、不眠や不安、無気力になったり、憂鬱な気分になったりするなどの症状が現れます。治療のために使われるお薬は、大きく分けて抗精神病薬(脳の神経の伝達物質を調整するための薬)、抗不安薬、抗うつ薬、睡眠薬、抗精神病薬による副作用を抑えるための薬、感情調整剤などがあります。これらのお薬は、症状を回復させたり、再発を防ぐために重要な役割を果たしています。精神科疾患の治療のために使われるお薬は、風邪薬や鎮痛剤のように効果が実感しやすく、症状がよくなれば服薬をやめてもよい薬と違って、よい状態を保つために規則正しく服薬を続けることが大切です。

現在では、錠剤、散剤、液剤、注射剤、そして錠剤でもお水がなくても服用できる口内崩壊錠など様々な剤型のものができています。作用の仕方も、持続性を持たせることにより、1日の服薬回数が減ったり、注射の間隔が長くなったりしています。また、副作用をできるだけ抑えたお薬も新しく開発されてきています。服薬されていて、副作用で悩んでいた、お薬が飲みづらくて困っていらっしゃったら、受診された際には是非ご相談下さい。

次回から作用別にお薬のご紹介をしていく予定です。



心の健康相談

～統合失調症についてのQ & A(その2)～

Q7 治療にはどのようなものがありますか？

A7 基本は薬物療法です。薬物療法に加えて、病状の回復や程度に応じた精神療法やリハビリテーションが行われます。

I. 薬物療法

治療の基礎となるものです。症状が激しい時期(急性期)の治療には抗精神病薬と呼ばれる薬物が特に効果を発揮します。

状況に応じて錠剤、液剤、散剤等の経口薬や注射薬が使われます。慢性期でも、再発を防ぎ精神療法やリハビリテーションを円滑に進めていくため、長期にわたる薬物療法をきちんと受けることが必要です。

II. 精神療法

患者さんだけでなくその家族もさまざまな不安や問題をかかえます。

診察の場や集団での精神療法を受けることで、病気や自分のもつ症状への理解を深め、精神的な安定をとりもどし、本人が再び社会や家庭での日常生活に戻れるようになることにつながります。

III. リハビリテーション療法

薬物療法によって激しい症状がおさまった後に開始します。入院中は作業療法士などによる作業療法や、レク療法などを行います。

外来ではデイケアに通所して、体力や集中力の回復を図ったり、対人関係など種々の問題を解決する技法、ストレスへ対処法等を学びます

Q8 治療に使われる薬物にはどのようなものがありますか？

A8 統合失調症の治療に用いられる薬は抗精神病薬と呼ばれています。

この薬を飲むと病気のために起こっている感情不安定、妄想、幻覚、思考の障害などを軽減することができます。脳の中で起きている情報伝達機能の混乱を改善させることで、症状が抑えられると考えられます。本邦では、現在十数種類の薬が治療に使われています。

【統合失調症治療薬の特徴】

• 新規(非定型)抗精神病薬

主にドーパミンとセロトニンという神経伝達物質に作用することにより、陽性症状、陰性症状の両方に対する効果が期待されています。

• 従来型(定型)抗精神病薬

主にドーパミンという神経伝達物質に作用することにより、陽性症状に対する効果が期待されています。

• 持効性抗精神病薬

1回の投薬(注射)で1週間以上の効果が持続する薬です。

(例) 4週間に一回の筋肉注射

● 内科外来について ～内科外来は4月より再開いたしました～

昨年1月より休診しておりました内科外来は平成23年4月より再開しております。精神科単科病院である当院に平成19年9月に内科外来が開設して以来、3年あまりが経過し皆様にも親しくご利用いただいておりますが、休診により長らくご迷惑をおかけいたしました。

地域医療の発展の一助となりますよう一層心がけてまいりますので、皆様の来院を心よりお待ちしております。

医師紹介

科 別	氏 名	職 名	専門分野
精神科	横山 昇	病 院 長	精神科一般
	山田 康人	科 部 長	精神科一般
	金澤 壮一	科 長	精神科一般、児童思春期、発達障害(成人を含む)
	石川 大道	科 長	精神科一般、児童思春期、発達障害(成人を含む)
	小林 秀孝	医 員	精神科一般
内 科	宗像 修	副 院 長	消化器内科

外来診療のご案内

● 外来受付・診療時間

診療科	受付時間		診療時間	
	午前診療分	午後診療分	午前診療分	午後診療分
精神科一般	8:30~11:00	13:00~15:00	9:00~11:30	13:00~15:30
内 科				
児童思春期外来	全て予約制		9:00~11:30 (水曜日、第3土曜日)	13:00~16:30 (木曜日、水曜・第3土曜日の一部)

● 診察日

- 精神科一般及び内科 ~月曜日から金曜日(祝日を除く。)
- 児童思春期外来 ~水曜日(県立医大派遣医師:週により休診有)
木曜日(当院常勤医師)
第3土曜日(平成24年3月まで)(応援医師)

● 予約診療について

- ☆ 精神科一般 新患 ~予約が必要です。
※新患の診察は、月曜日から金曜日の午前中のみ。
- ☆ 精神科一般 再診 ~午後の診察について予約の受付を行っています。
- ☆ 児童思春期外来 ~全て予約が必要です。

【予約受付時間】 8:30~12:00 13:00~17:00(月曜日から金曜日)

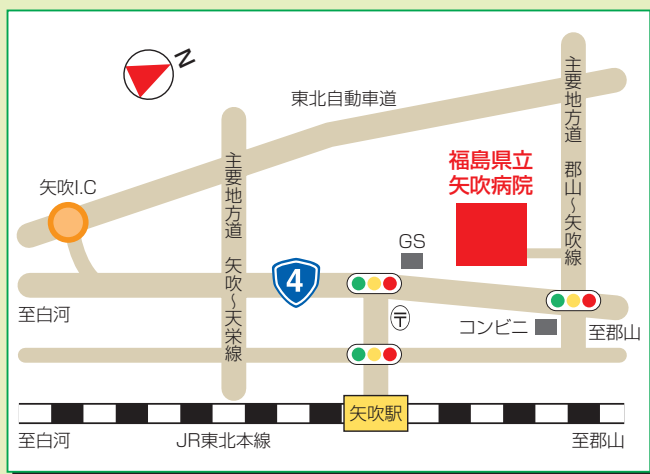
※担当医の診察日については、当院のホームページをご覧ください。
代診・休診についても、ホームページでお知らせしております。

交通のご案内

- JR矢吹駅より徒歩20分。JR矢吹駅(西側出口)と当院を結ぶ送迎バスも運行しております。



<送迎バス時刻表>



迎え	JR矢吹駅 → 矢吹病院
1便	8:10発
2便	8:40発
3便	9:40発

送り	矢吹病院 → JR矢吹駅
1便	9:25発
2便	10:50発
3便	11:20発
4便	14:30発
5便	15:25発

※病院正面玄関前からご乗車できます。

発行 ● 福島県立矢吹病院

〒969-0284 福島県西白河郡矢吹町滝八幡100 TEL0248-42-3111 FAX0248-44-2551

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/kenbyou-yabuki/index.htm>